

# 事業完了報告書（実行団体）

事業名:	ゲストハウスを活用した生活困窮者支援事業
資金分配団体名:	認定NPO法人北海道NPOファンド
実行団体名:	株式会社PLOW
実施時期:	2020年10月～2021年9月
事業対象地域:	特定地域（北海道札幌市・江別市）
事業対象者:	ホームレス状態にある生活困窮者

Version 3.2  
日付: 2022/2/24

## I. 事業概要

事業実施概要	本事業は、感染症災害によるホームレスの増加に対応するための居住確保を進めると同時に、ゲストハウスの交流機能を活かして、社会的孤立の問題に対する新しいアプローチを実施・普及する。さらには、ホームレス状態の生活困窮者が多く存在する札幌市とは異なり、一棟借上等による大型シェルター・支援付き住宅の整備が難しい地域において、ゲストハウスを活用したホームレス状態にある生活困窮者支援のノウハウ移転を試みる。今事業期間においては、札幌市のとなり位置する江別市で、ゲストハウス「ゲニウス・ロキが旅をした」を運営する合同会社ロキに対し技術指導をすることで、当団体の取り組みの横展開を図ろうとするものである。
--------	---

## II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	本事業開始時期である、2021年9月時点も新型コロナウイルス感染症の影響による失業・住居喪失は後を絶たず、当初の想定を超える数の利用者(想定90名に対して91名)があった。事業主体である株式会社PLOWは、活動を通じ本事業の要である「困窮者支援」の必要性を感じ、事業終了後も継続することを決定する。これは主体者自身も当初は想定していなかったことである。一方で当面のシェルター確保と日常的な支援にリソースを割いてきたので、居住供用は計画通りにできなかった点は反省点である。ただ、異なる形ではあるが新たな形の支援として同施設内1階に書店をオープンすることで、多くの人との関わりしるを作れたこと、社会に向けて声を発するきっかけを作れたことは成果として評価したい。また、合同会社ロキに対する技術指導による横展開という点では、予定通り遂行し、さらにその後(本事業の範疇ではないが)、道内4箇所に同様のゲストハウス⇔シェルターの一時転用を促し、実行した。これにより、一時生活支援事業を行っていない道内自治体で、住居喪失のケースが発生した際、これまで実施自治体への旅費を出しある種「たらい回し」状態であった当事者が、速やかにシェルター入居できる下地を作れたことも本事業から派生した成果と言える。ただし、横展開は道内全域をカバーできていない訳ではなく、それは今後の課題である。支援付き住宅の供用を実施できなかったことは課題であるが、それ以外に関する課題設定、事業設定に関しては適切であり、本事業を超えて広がりを作れたと思う。
-------------------	--

## III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
ホームレス		シェルターの交流機能が強化される（UNTAPPED HOSTEL）	参加者数	111名（うち住居喪失者91名・シェルター交流者20名）	91名の入居者（合計536泊） 一般交流支援者 20名	
ホームレス		シェルターの運用が開始し、一時居住支援が実施される（ゲニウス・ロキが旅をした）	入居者数	3名	3名の入居者 合計96泊	
ホームレス		ホームレス状態にある生活困窮者と地域や旅人との交流が生まれる（ゲニウス・ロキが旅をした）	参加者数	90名	大麻銀座商店街をはじめとした各店との交流・協力体制の構築・イベント開催	
生活困窮者		生活困窮者への能力開発の機会が提供される（ゲニウス・ロキが旅をした）	研修回数	6回	能力開発のためのパソコン授業 6回	

## IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）\*

事業実施以降に目標とする状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UNTAPPED HOSTEL：交流機能の強化・支援付き住宅の供用により、ホームレス状態の生活困窮者に対する居住支援の拡充、社会的孤立に対する新しいアプローチについての有意性を明らかにし、新規参入するゲストハウスを1件増加させる。</li> <li>○ゲニウス・ロキが旅をした：シェルターのない地域に、ゲストハウスを活用したシェルター運営のノウハウ移転。本事業終了後の宿泊費負担に関しては、行政による制度化を目指す。</li> </ul>
考察等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○UNATAPPED HOSTEL：支援付き住宅の供用の計画を途中で切り替え、シェルターの継続を選択。社会的孤立に対する新しいアプローチについての有意性を明らかにするという点で、本事業の影響を受けUNTAPPED HOSTEL(株式会社PLOW)は、民間シェルター運営の継続を決定。新たに同施設内に書店を併設するという試みを開始し、クラウドファンディングを実施。合計732万円の支援を受け社会的に困窮者支援の新しい形を提示するに至った。また、それ以外にもNPO法人コミュニティワーク研究実践センターとの協業を図り、全道の4箇所のゲストハウスを一時的にシェルターに転用する仕組みを構築することに成功した。支援付き住宅の供用は断念したが、これらの成果は本事業を通じてのシェルター継続の末に決定されたことであり、大きな影響を与えている。</li> </ul>

## V. 活動

活動	進捗	概要
シェルター運営	計画通り	リーチについては、関連団体からの情報提供により実施したが、ニーズの高まりも有、活動に対して想定以上にリーチがなされた。
支援付き住宅の供用・入居者への生活支援の実施	中止	シェルター運営に人的リソースが割かれてしまい、実施が困難となり、予定を変更した。
江別でのシェルター開始	計画通り	UNTAPPED HOSTELのゲストハウス⇔シェルターの転用の経験を共有し、実際に江別のゲストハウスでもシェルターを開始

## VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>本事業の影響を受けUNTAPPED HOSTEL(株式会社PLOW)は、民間シェルター運営の継続を決定。新たに同施設内に書店を併設するという試みを開始し、クラウドファンディングを実施。合計732万円という予想を超えた支援を受け社会的に困窮者支援の新しい形を提示し、その存在を知ってもらった。同書店は2021年10月にSeesaw Booksという名義でオープンし、「書店+シェルター」という全世界でも例を見ない誰にでも開かれた複合施設として現在運営中。書店という開かれた場所を併設することで、そこで福祉勉強会等のイベントも積極的に行い、地域の学生を中心に「ケア」というキーワードをもとに新しい社会の小さなサンプルを提示している。</p> <p>・本事業での活動実績が評価され、NPO法人コミュニティワーク研究実践センターとの協業を実施。全道の4箇所のゲストハウスを一時的にシェルターに転用する仕組みを構築することに成功した。</p>
---------------------	---

Ⅶ. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	事業主体者として、事業終了後も引き続きシェルター継続し「書店+シェルター」という新たな形の困窮者支援のあり方を模索するマインドセットに至ったことが非常に大きな変化であった。またそれに伴い、これまで困窮者や支援者の存在自体に関心のなかった近隣の人々や学生が「書店」をきっかけとして、活動に関わろうとする入口を作れたことも成果と呼べるのではないかと。事業実施期間に行った炊き出しでは、冬服の寄付を募ったところ100名以上の寄付があり、こうした活動は初めてだという報告も沢山あった。シェルターの規模は大きいものではなく、実際の入居者数という点では限りはあるが、関心のなかった層を当事者として巻き込む仕掛けを作れたことで、関係者の数は圧倒的に増えた。それによりこれまでの入居者は社会と接点のあるシェルターでの生活を通じて、社会/人との繋がりを維持できた印象である。
-----------	--

Ⅷ. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果

Ⅸ. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

事業費		計画額	実績額	執行率
直接事業費		4,040,000		0.0%
管理的経費		960,000	960,000	100.0%
合計		5,000,000	960,000	19.2%
補足説明				

Ⅹ. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	Webメディア「70seeds」、マガジンハウス「福祉をたずねるクリエイティブマガジン」「こここ」、HTB（北海道テレビ放送）メディアサイト・SODANE、「Branch」のYoutubeチャンネル、NHK-FM・北海道ブロック「ナナメの場」、北海道新聞（9/10 夕刊）、北海道の今を届けるwebメディア「Domingo」、STVラジオ「まるごとエンタメーション！」
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	
4.報告書等	

Ⅺ. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。	完了	
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	整備中	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。		
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 （実施予定の場合含む）（複数選択可）	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査	
	<input type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	